平泉を掘る

発掘最前線⑯

― 伽羅之御所跡27次調査 ―

伽羅之御所跡は、無量光院跡や柳之御所跡に近く、鎌倉時代に書かれた「吾妻鏡（あづまかがみ）」によると、「秀衡が常の居所」とあります。これまでの発掘調査では、井戸跡や建物跡、溝跡などが見つかっており、特に井戸には鏡が納められていたり、柱穴にはかわらけが積み重なる様に埋まっていたり、貴重な事例もありました。

今回の27次発掘調査では、柱穴や井戸跡、溝跡などが見つかっています。

柱穴の大きさは25～60㌢程度で、1.7～２㍍ぐらいの間隔で東西方向に数個並んでいるものが数列ありました。南側に平行する列がないことから、北側に展開する建物の南半分が、複数棟見つかっている状態です。

井戸跡は調査区の端から１基見つかりました。東半分が調査区外のため、全体を調査することはできませんでしたが、かわらけや陶器・磁器を出土しており、12世紀の井戸と思われます。

溝跡は南北方向と東西方向の２条が交差して延びています。南北方向の溝は、東西方向の溝よりも古く、直線で調査区外まで続いています。見つかった建物のうち１棟と方向が同じため、建物と同時期に存在した可能性があります。

柱穴や溝は出土遺物が少なく、どの時代なのか現在検討中です。

調査区全景（南東から）

井戸跡断面

ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C103798 www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK この印刷物は、環境にやさしい「植物油インキ」を使用しています。

◆平成30年３月号　No. 729　平成30年３月１日発行
◆発行　平泉町　〒029-4192　岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2　TEL0191-46-2111　FAX0191-46-3080
◆印刷　川嶋印刷株式会社　◆希望者には広報ひらいずみ掲載の写真を差し上げます。